
魔法少女リリカルなのは 交じり合う狂気

わいていー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは 交じり合う狂気

【Nコード】

N4096BA

【作者名】

わいていー

【あらすじ】

いつもいつもヘタレな男子の主人公レイン。だがヘタレの癖に悲しんでいる女の子を助けてしまう、あげくの果てにヤンデレに……。

レインはヤンデレに耐え切れなくなり逃げることにしたが……。初めての投稿っす！！応援、感想、アドバイス募集するっす！！

プロローグ（前書き）

初めての投稿っす！！ キャラ崩壊などと原作が汚されるのが嫌なひとは見ないでほしいっす！！

フ?」……行くなら私もついて行く。

離さないよ私にはキミだけなんだから……。」

は?」……もちろん、うちもや。

死んでもついてくで……。」

レ」……。」

S a i d レイン

……どうして、こうなってしまったんだろう。

ただ手を伸ばしただけなのに、涙を拭ってあげただけなのに。

……こんなにも、狂ってしまったんだろう……

……僕は弱虫だからなにもできない。

……ただただ、この恐怖から逃げるだけ。

早く早くはやくはやく……この世界からきえたい。

レ」……まだ?ソロー……」

ソ(もう少し、お待ちくださいマスター……)

レ」……わかった……もう少しだけ時間稼ぎを「何してるの

?」!?……するから。」

な?」さつきから……何してるの?」

……こんな感じで

レ「君たちのことを考えてたよ……」

な・フ・は「ほっ本当！？／／／／／」

レ「うん、本当だよ」

………うそだけど

いつもそうだ、嘘ってわかってるはずなのに……簡単に信じて受け入れる。

それがとても怖い、何を考えているのかわからない。

……それに、僕と会う前は綺麗な目や髪をしていたのに今は漆黑……すべてを飲み込むような色。

それも、3人共だ。

……僕のことをずっと考えていたらなっっていたらしい。一回自分
分は呪われているのかとおもったほどだ。

それも、これで終わり……デバイス相棒であるソロと一緒に正しい世界に戻るんだ。

……だれも、彼女達によって誰も消されていない世界へ……。

ソ「マスター………」

………やっぱり、僕に似合わないほど優秀なデバイスだよ……君は……。

チラリ……と、なのは達を確認……。

な・フ・は「／／／／／／／／／／／／／／／／／」

・・・まだ喜んでた。恐ろしいね。

魔方阵を展開・・・

な・フ・は「「「!?!?」「「「

レ「・・・最後に言うておく・・・し

ヒュン

・・・転送中。

レ「ねえ、ソロー・・・」

ソ「はい、マスター・・・」

レ「もうちょい、空気よんでよ・・・あれぜつたい追跡フラグ立ちやっただじゃん!!」

何あの最後の「し」って、僕だったら気になって眠れないよ!」

騒ぎ出すレイン

それを、冷静に宥める自称マスターの人生相談役ことデバイスのソローは・・・

ソ「だつて」

レ「冷静じゃないジャン!!」

地の文にツツコンじゃだめっス!!

レ「黙らっしやい!!」

.....。

レ「地の文が本当に黙るな!!」

.....ZZZ.....フガッ.....ZZZ

レ「寝てるんかい!!」

ソ（誰と話しているんですか。頭大丈夫？ 痛い所ない？ おねんねできるう？）

そう言って優しく点滅する.....グスッ.....いいお母ちゃんっス.....

レ「これからどうする?」

あっ、そうやって無視するんですか？ いやな奴っつス

ソ（一度このまま流されていきましよう。）

おゝいそろそろお許しをいただきたいっス

レ「了解.....で、どこに着くんだ?」

ほっ放置プレイっすか、耐えてみせるっす

ソ(……………)

……………。

レ「……………」

……………。

レ「……………わからんのか?」

……………プルプル……………

ソ(……………す)

……………す。

レ「……………す?酔?」

ソ(すっすみましえんでしたあああああ!!!(

アィム ソーリー ヒゲソーリー!!

レ「しかたないな。許してやるよソロー」

あれ、すべる技をつかったはずなんすけど

そのとき、まだレインはきずいていなかった。

……………背中に小さく輝く機械があったことに……………

S a i d ヤンデレ達(なのは、フェイト、はやて)

な「・・・行っちゃったね」

フ「・・・そうだね」

は「・・・けど、レイン君はかわええなあ」

はやての手に握られている何かの場所を示している機械・・・その機械は起動している。

フ「まさか、レインが気がついてなかっただなんて・・・フッフ・・・」

フェイトは笑顔になる・・・誰をも魅了する微笑である。

な「うん・・・//////////」

なのはは、なのはで・・・妄想ゾーン・・・

な「つけておいてよかったな～・・・発信機・・・」

そう、あれは発信機

は「・・・でも、少しだけそっとおいてあげへんとな」

な・フ「」どうして!?!?」「」

もう早く追いかけたらいい(汗)

は「……………レイン君は、……………残念やけどウチらに恐怖しとるやんか……………」

な・フ「……………なるほど」

みんな何かを理解したようだ

な・フ・は「……………待っててレイン君……………」

プロローグ（後書き）

駄文っすね。

今回のプロローグで、アドバイスを募集するっス！！

亀更新かもしれませんが応援よろしくっス！！

キャラ説明っス!! (前書き)

小説書くのって大変っスね!!

わかりにくいと困るので

説明っス・・・どうぞっス!!

キャラ説明っス！！

主人公

レイン・グラゴニス

13歳 性別 男の娘？ 身長？？（いつも幻で変化しているから忘れたらしい）

本作のヘタレ主人公。

基本的には、逃げ腰だがお酒などでテンションが上がるとぶるあああああと、別人である。

最近は女性恐怖症になりつつある。だが、困っていたり悲しんでいたら手を差し伸べちゃうフラグやろう。

身長をしょっちゅう変えてヤンデレにはれないようにしている。

魔法は主に幻術を使う。ものすごくリアルなのでヤンデレ（最強）相手にも十分有 効。攻撃魔法は一切なく、

幻術一筋！！

髪は黒だが目は青である。

魔力光

灰色

魔力ランク

AAA

近接ランク

測定不能（弱すぎて）

遠距離ランク

C+（あればいいくらい）

特殊ランク

SSS（幻術だけで）

レアスキル 「狂愛の心」

自分を死ぬほど愛す人^{ヤンデレ}に強大な力

を与え自分

が敵と判断

したものを変わりに処理する。いわば多少洗脳状態。

ソロー（インテリジエンスデバイス）人格 女性

主人公レインのデバイス。

基本は冷静でありレインのサポートを行う優秀なデバイスである。

時々冗談をいってレインのメンタル面もサポートを行っている。レインのことを一番に考えており、レインがヤンデレを自然に作ることを受け入れどうやってレインを守るか考えている。形状はネックレスでありセットアップ時は鎖。

ヤンデレ（なのは、フェイト、はやて）

すでに、その身は「狂愛の心」によって不老となっている。

魔力量もすでにSSSオーバーである。髪の毛は黒く染まり目は赤く染まっている。

デバイスさえも黒くそまっついていて話す機能が消滅している。レインのことが大好きでたまらない。レインが人間に恐怖してしまったため、一人残らず処理されている。なのは達は特にどうとも思っていない。

キャラ説明っス!! (後書き)

どうぞでしょうかいできたっすか?

理解できない所があったら聞いてください!!

では、さいなら。

1話 えっ意味なくね!? (前書き)

最近、ちょっととした感想がうれしいッス!!
心の励みになるんすよ・・・
これからも、応援よろしくッス!!

本編をどうぞッス!!

1話 えっ意味なくね!?

運命って・・・最近残酷だとももつ

・・・ヒュン

とある場所に魔方阵が展開された・・・

レ「さてと・・・とりあえずは追跡されずにすんだかな？」

ヘタレ主人公、レイン君と。

ソ（・・・そうですね。とりあえずは、追われなかったみたいですね。）

冷静沈着、自称人生相談役の優秀デバイス・・・ソロー様・・・登場！！

レ「で・・・ソローのことだから、もうこの場所が何処か・・・わかってるんでしょ？」

ソ（・・・はい・・・ですが）

レ「ああ、いいよ。たまには自分で調べてみるよ。」

ソ(・・・・・・・・・・はい、承知いたしました。)

後に・・・・・・・・レインはソローの話を聞いておけばよかったと思うなど
・知るよしもなかったらしいっす

S a i d ????

私の名前は、高町なのは。

現在はPT事件が終わって、ゆっくりしている所です。
今回の事件・・・・・・・・色々なことがあってヘトヘトでした。
フェイトちゃんとも連絡をとりあったりしています。

まあ、そんな感じでいつもどおりに過ごして・・・・・・・・ユーノ君とお
さんp

な・ユ「「!?!?」「」

な「・・・・・・・・気のせい?・・・・・・・・じゃ、ないよね。」

ユ「うん・・・・・・・・確かに魔力反応だ・・・・・・・・管理局は今はいないはずだ
し・・・・・・・・。」

突如現れた魔力反応に、どうしようする二人・・・・・・・・

な「行かなきゃ・・・・・・・・だね。」

ユ「……………うん。」

反応があつた方向え走り出す二人……

この時……なのは達は知らなかつた……

これが狂つた運命の始まりだとは……………

S a i d レイン

人の反応があつたので、とりあえず向かうレイン君

とりあえず町に入るレイン君

そしてとりあえず、町を見た。

そして、レイン君の一言……………

レ「………海鳴市ですよおおおおおおお
おおお！……………ソローさん」

……………

超怖いッスー！

ソ（はっはいいいいいいい……！）

あまりの威圧感に空間が歪みはじめたあああああ！！（気がするだけ・・・）

レ「……………ソロー……………説明ヲ……………」

ソ（はい！！ここは確かに海鳴市であります、パラレルワールドだと推測されます！！」

レ「……………？パラレルワールド？？」

……………ちょっと、どうしてわかるのかな？（怒）

ソ（その証拠に、ヤンデレ達の強大な魔力が感知できません！！）

そう、ヤンデレの反応は……………である……………。

レ「……………フウ……………そっか……………なら安心して生きていけるね……………」

それに気がつかないレインもレインっすね。（汗）

？「あのくすいません……………」

……………誰かが話しかけてきたっすね。

ソ（マスター……………誰かかなしかけて！？……………マスター
申し訳ございません）

・・・ん、どうしたんだろ？

レ「はっはいなんです・・・ぎゃあああああああ！！」

?「どどどどうしたんですか!？」

レ「なななななのはじゃあああああああん!? ソロおおお
おおおおおおお!！」

な「はっはい?確かに私は高町なのはですけど・・・。」

ソ(まっマスターおちつ、おちつううううう!!!(

お前もっすよ(笑)

ソ(マスターここは、落ち着いてください!!ここはパラレルワ
ールドです。)

必死に伝える冷静(もう自称ツス)なデバイス・・・

レ「パラレルワールド?違う可能性の世界?ヤンデレじゃない世界
?」

ソ「はい!!そうです!!」

そう、パラレルだからヤンデレであるはずがないツス!!

な「あっあの〜」

レ・ソ「「はっはい!」「」

S a i d なのは

なんだか怪しい人たちなの……

さつきから、なんかゴニョゴニョしてるけど……

な「少し、お話聞かせてもらえますか？」

？「……………」

む、失礼な人なの……

？（…………すみません。マスターは女性恐怖症なので……私が代わりに代弁させていただきます）

……？。これはデバイスだね……。

な「初めまして。高町なのは、てっ言います。」

ユ「僕は、ユーノ・スクライアです。」

ユーノ君……そういえば居たんだったね……

でも、自己紹介は大切なの

？（はい・・・私はソローと申します。・・・マスターの名はレイ
ン・グラゴニスと申します。）

・・・・・・・・む。

私はレインさんに近づく・・・

レ「ひ!?!」

な「は・じ・め・ま・し・て。高町なのはです!!--」

自分で紹介しないなんて・・・幾ら女性恐怖症でも・・・駄目なの
!!!--

レ「・・・・・・・・まして・・・・・・・・。」

な「・・・・・・・・・・・・・・・・ニコッ」

レ「はじめまして!!--」

よし・・・・・・・・なの。

ユ「あはっあはははははは・・・・・・・・。」

・・・・・・・・で。

な「これから、お話きかせてください・・・・・・・・ね?」

レ「そ」「はっはいいいい」「・・・・・・・・」

これからちやあぁあんと聞かせてもらうなの……

そんな、なのはにビクビクしながらついて行く人が一人と一つ見られたらしい……

1話 えっ意味なくね!?(後書き)

こんかいはどうっすか?

……文が短いッス

ユーノをマジ忘れてたッス……

これからも、応援や感想を募集ッス

がんばっていくっすよ〜

2話 約束と迫りくる恐怖(前書き)

最近つらいこといっぱいっすー!!

でも頑張るっすー!!

本編始まるっすー!!

どうして・・・そんなに悲しい顔をするの？

な「何か理由があるなら相談してください。手伝えることがありません」・・・どうして。」

彼のデバイスであるソローさんが遮る・・・

ソ（・・・どうしてあなたは、とまどいもなくマスターの心を傷つけるられるんですか？）

な「傷つけてなんか・・・。」

ソ（マスターのことを知りもしないで・・・出しゃばらないでください！！）

・・・そんなことわかってるよ・・・でも・・・。

な「話してくれなきゃなんにもわからないよ！！！」

ソ（・・・）

な「何にも知らないまま・・・終わらせたくないよ・・・。」

彼女は黙ってる・・・

ソ（・・・フツ・・・）

な「・・・？」

ソ「……やつ等がもし……貴女の様なひとだったら……
マスターは……。」

……???

な「……やつ等？やつ等っていったい……。」

ソ「私からはお話できません……。」

……ここで引いちゃだめなの……。

な「でも、それでも！！わた（ですが！！）……？」

ソ「貴女がマスターの信じるに値する人なら……マスター……。」

レ「……信じないよ……。」

……だったら……。

な「……私がもし……もしだよ？貴方の信じるに値する人間に
なったら……。」

レ「……いいよ……ありえないからね……。」

……やった！！！！！！

な「約束……だよ？」

レ「うん……。」

S a i d レイン

.....。

ソ（マスター.....）

こりゃ、ヘタレ卒業つかね・・・

な「グラゴニスさん.....レイン君ってよんでいいですか？／／／／／／／」

レ「.....？勝手にしてい（マスター.....）.....何？」

ソローが話を遮る.....

ソ（マスター.....また同じ過ち（.....）を繰り返すつもりですか？.....」

レ「やつ.....やつぱり駄「駄目.....ですか？／／／／／」.....
いいよ。」

ソ（マスター.....ハア.....）

もじもじしながら言ってきた.....怖いよう.....

な「レイン君は、学校は通うの？」

レ「学校？どうして？」

いらないんじゃない？

な「だってレイン君同い年みたいだし、友達作ったほうがいいし・
・。。。」

・。。ムカツ

レ「余計なお世話！！。。それに今更、やつ等に処理された人た
ちにあつたつて。。。。。」

な「。。。。？」

ソ（マスター。。。。）

ううむ。。。。。。。。。。よし！！

レ「わかった行ってみるよ。。。」

な「うんうん！！」

レ「。。。。明日から行くから。」

な「わかった！！絶対だよ！！」

レ「うん。。。。。」

・。。。。。。。なんで、よろこんでるんだらう。。。。

な「じゃあ、私家に帰るね・・・そういえば、レイン君お家は!？」
あ、そうだった・・・

レ「ソ」(問題ございません)・・・らしい・・・。
本当に優秀なのかアホなのか・・・

な「あ、アハハ・・・。」

ちよつとの時間だけ平穏な空気を味わえたレイン君。

・・・しかし、もうその背後には狂いしもの達が近づいてきてい
る・・・。。。

S a i d ????

?「あの、なのは・・・処理しちゃっていいかな？」

?「駄目や・・・もう少しだけ我慢するんや・・・。」

?「自分なのに・・・恨めしい・・・。」

?「あんなん、いつでも処理できるやろ?。」

? 「そうだけど……」

? 「今は、我慢時や……」

? 「……早く……マトモになってね……」

? 「? 「完璧に……コワシテ……私のものに……」

S a i d レイン

レ「! ?」

ソ(……? マスター?)

気のせい……だよ……

レ「何でもない……心配しないで」

ソ(……そうですか)

それにしても……

レ「学校か……」

ソ「本当に大丈夫ですか! ?」

制服とか買っのかなあ・・・・・・フフッ・・・

2話 約束と迫りくる恐怖（後書き）

レイン君学校・・・まんざらでもないんすね・・・

といことで、どうでしたか？

最近疲れが溜まっていたいへんっす。

次話がんばります!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4096ba/>

魔法少女リリカルなのは 交じり合う狂気

2012年1月12日02時00分発行